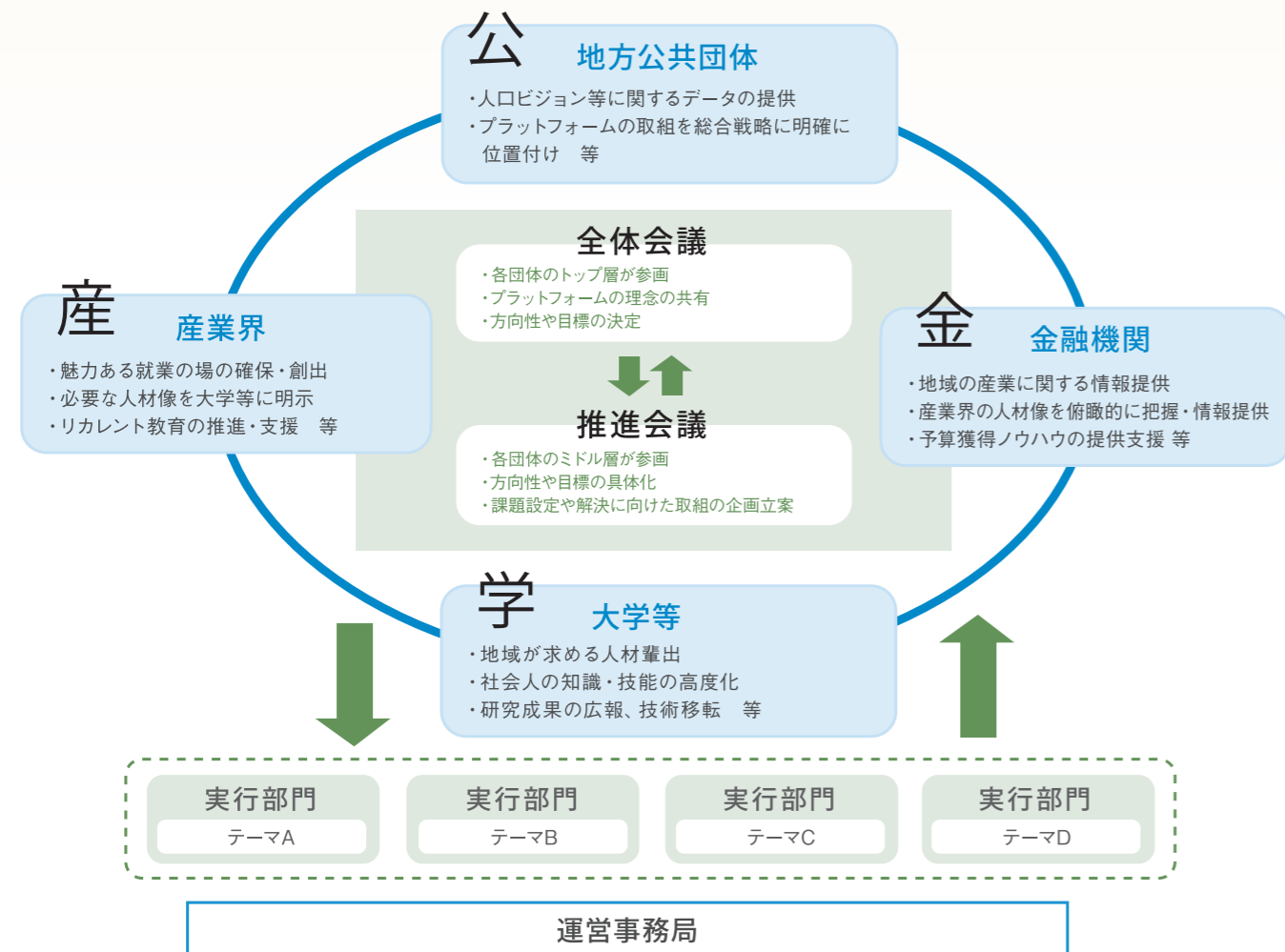


産学公金の連携で地域課題の解決に取り組む「地域連携プラットフォーム」

山口大学は地域の「知」の拠点として、地域経済・社会を担う人材育成や教育機会の確保を通じて地域社会の発展に寄与してきました。近年、山口県の人口減少を始めとした社会変化や今後の持続的な発展を考えると、大学みずからが地域社会の課題解決に取り組むなど、これまで以上に積極的な役割を果たすことが期待されています。その期待に応える方策として「地域連携プラットフォーム」を構築することが国から示されています。地方公共団体、地域に根差す産業界、金融機関等の様々な関係機関と地域の高等教育機関が

一体となった恒常的で平等な議論の場を構築、エビデンスに基づく現状・課題を把握した上で将来の目標を共有し、連携協力の抜本的な強化を図るための仕組みとなります。地域の高等教育のグランドデザインの策定、若者や社会人の高等教育機会の確保や地域への人材の定着など、地域社会の維持発展を目指します。以下の図は、文部科学省が令和2年10月に策定した「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン」や国の動向等をもとに作成した概念図です（図1参照）。

【地域連携プラットフォーム概念図】（図1）



◆やまぐち地域共創プラットフォーム

令和4年11月に山口市（公）、山口商工会議所（産）、山口銀行山口支店（金）、山口県立大学、山口学芸大学、山口大学（学）で構成する「やまぐち地域共創プラットフォーム」を立ち上げました。

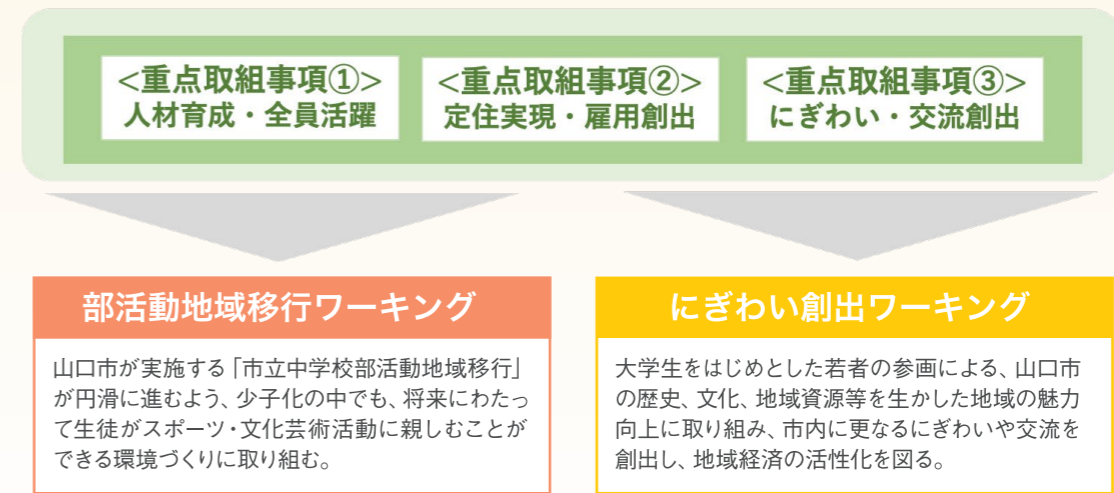
山口市の現状や課題、各会員団体が掲げる将来計画の方向性を踏まえ、山口市の人口減少や少子高齢化の進展、人生100年時代が到来する中において、一人一人が楽しく、幸せを感じ、それらを支える環境が整っているまち「Well-be-

ingあふれる山口市」を目指し、①人材育成・全員活躍、②定住実現・雇用創出、③にぎわい・交流創出の3点を本プラットフォームの重点取組事項として位置づけました。

具体的には、「部活動の地域移行」及び「にぎわい創出」を推進するためのワーキングを設置し議論を進めてい

ます（図2参照）。特に、部活動の地域移行については、地域指導者の人材確保などの協力が求められています。にぎわい創出については、各団体で実施しているイベントの情報共有を行い、学生の協力を積極的に取り入れながら既存の取組を発展させる予定です。

【やまぐち地域共創プラットフォームの取組事項】（図2）



◆うべ・未来共創プラットフォーム

宇部市が掲げる「共存同栄・協同一致」の理念のもと、令和4年11月に宇部市（公）、宇部商工会議所（産）、山口銀行宇部支店（金）、宇部フロンティア大学、宇部工業高等専門学校、山口大学（学）で構成する「うべ・未来共創プラットフォーム」を立ち上げました。

宇部市を取り巻く社会情勢、将来の都市像を踏まえ、人口減少、少子高齢化の進行や、安心・安全な暮らしを脅かすリスクの高まりの中において、「ひとが輝き交流ひろがるわたしたちの宇部」の実現を目指し、①中心市街地の活性化、②市民の健康増進、③地元企業の魅力発信・若者定着の3点を本プラットフォームの重点取組事項として位置づけました。

その重点取組事項をもとに、「認知症予防・認知症との共生」及び「中心市街地の活性化」を推進するワーキングを設置しました（図3参照）。認知症予防・認知症の共生については、認知症に関する正しい知識を幅広い層へ知ってもらう為、市民に向けた啓発活動や認知症サポーター養成講座の充実等の検討を始めています。中心市街地活性化については、市内大学生に対してアンケートを実施し、中心市街地への訪問頻度や期待、課題について現状分析を行いました。現在、具体的な取組みについて議論を進めています。

【うべ・未来共創プラットフォームの取組事項】（図3）

